

※ 大島八重子のパフォーマンス ※

6月4日(木) AM 10:30～ イレブンス（紅茶の集い）1,500円
6月7日(月) AM 11:30～ レコードコンサート（往年の映画音楽）
解説、大島八重子（食事代含）in 湊屋
6月22日(月) AM 10:30～ ぼやきコンサートinまのや 5,000円
（食事代含）
7月2日(木) AM 10:30～ イレブンス（紅茶の集い）1,500円

記憶力

若き日に覚えた植物の名がいっぱいある。

庭に咲く花は一部を除いて、ほとんどその名が口にでる。

好きであることが高じて、そのようになったのであろう。

若くない今日になってはその記憶への努力は無理になってきた。

一生懸命体験、記憶にしたことだけを思い出にして余生を楽しんだがいい。

好きに歌う歌詞、料理の幅、歴史、地名等、若い時に培った努力は無駄になっていない。

費やした時間と金銭も相当なものになろうけれど悔いはほとんどない。

私にとってこの無駄らしきことが今日の有益な結果を残してくれているから。

芋と豆

ださい食材の代表に芋と豆を表現するのは私だけではない。

その芋と豆の大好きな私である。と同時に酒を好む人はその芋と豆が苦手のように

私はみるけれど……。美味しい豆腐を食べる時にいつも思う『日本人でよかった』と

小豆が基本の和菓子。ほどよい甘さのあん無くして生きていけない私。

里芋は素ぼくで日本の原風景を思わせる。

じゃがいもは何の料理にも通ずる奥の深さがある。

丸焼きにしたさつま芋を冷たい牛乳で食す、至福の時間。

一年中、芋と豆を食べ続ける私は健康であるのかないのか解らないけれど

今日まで生かさせてもらった理由のひとつにしたい。

コロナホリデー

諸問題をかかえての自粛。外出しないようにとの政府からの要請にはある意味で私にとって有益になった。仕事も会議も約束も全部中止。ずっと休んで自宅に居られるとはめったに無いことではないか。

この時とばかり私はDVDの映画を楽しむ。そして庭の草取り、身辺の整理、料理、読書、と至福の時間になり私への収穫が多い。折しも時はうらかな春ではないか。

この時間を楽しまなかったらとても不幸な時間に終わる。その日が良ければすべてよし、明日のことは明日考えたがいい。現状を前にして、静かに傍観することにした。

窮地に追い込まれているのに自然の花達は美しく咲いている。大好きな筍も昨年より豊作で思う存分賞味出来る。

積み上げた本、ファイル、写真を整理していたら封筒に入った現金らしき物が出現した。買い込んだCDもいっぱいある。聴いてみたら、その時がよみがえってくる。思いもかけないこのコロナホリデーは、これからのライフスタイルを固めてくれる時間になった。

ジンジャー

どの花もいい香りを放つ

初夏の暑さのなかに、このジンジャーの匂いに出逢うと、心底からスツクリとした気持ちに私を誘ってくれる。

香りだけではない、姿も、形も、色もいい。

同じ場所に植えたままにしてあるけれど

その季節がめぐってくると

私をなぐさめてくれる。



森田 あさこ 画

ノノハナシんぶん
お客様は猫である

発行所 『野の花』

ところ 一宮市西島町
2-52-2

☎ 0586-72-3733

FAX 0586-72-1333

発行人 大島八重子

反省

新しい世界が始まる。

コロナ感染は世界を震撼とさせ

世界戦争に並ぶ恐怖を我々に

とことん、落ちるところまで落ちた。

この地球に住む私達は

すっかり降参せざるに至った。

その試練を肌で感じ

心底反省したがいいであろう。



今日までの生き方、今後の方向を転換して、

新しい落ち着いた世界にさせる努力が必須になってきた。

物資とゴミにうずもれ、便利を覚え、限りない欲望の数々は
心を貧しくさせ、必ず行きづまる時がやってくる。

まさに今がその時と言えよう。

トラでございます



独居老人の主人を訪ねるお客様が大変多いような気がします。
そのお客様達は私に対しても優しくして下さいます。
それもお義理での愛想でなく、心からその気持ちを表して下さいます。
私も年老いておりますので、その本心を強く感じております。
そのお客様達に精一杯愛を込めた、お返しらしき行動で敬意を示しております。
私の毎日はただ寝て、食べるだけで何のお役にも立っておりませんけれど、主人は私にただ元気でそばにいてくれればいと申します。
それでよろしいんでしょうかねえ・・・。
主人が先なのか、私が先なのか、私達の終りは予想が難しいのですけれど、
今がよろしければという心情で生きていくつもりでございます。

憩いの部屋

自宅に居る時間が増えた。
老いて仕事量も少なくなり、体力も落ち、
当たり前とその時間が多くなる。
寝室、リビング、キッチン、バス、このエリアでの空間が
日常の居場所になる。
朝7時起床、夜10時に就寝の繰り返しになってきた。
まことに極楽な毎日であるから、決して不満などない。
料理も洗たく、そうじにも支障のない今の生活を楽しんでいる。
老人が一人こもると、その特有の空気が流れる。
外気を入れることにつとめ、極力加齢臭の少ない状態が望ましい。
明るくさわやかな色をカーテン、寝具、台所に取り入れ
スッキリした場所を心掛けた。
余分と思われる目障りな物品を極力排除した空間がいい・・・。
美しい環境で、落ちついた気分で過ごす憩いの部屋にすることこそ
今後の重要課題になる。